

沿 革



下関市消防団

宝永3年1月 (1706年)	下関市における消防の起源は、江戸時代で第3代長府藩主毛利綱元が防火の法を制定し、領内の住民に布告した史実があり、その後武士や農民による消防組織が形成され、維新後もその伝統が継承、後の消防組へ進展した。
明治10年3月 (1877年)	赤間関警察署設置当時、構内(こううち)「地下(じげ)ともいわれ、現在の町内会をいう。」の一部有志の間に夜回りが組織化され『消防組』となり、警察機関が監督していた。
明治22年4月 (1889年)	赤間関に市制が布かれ、国の委任事務として、赤間関市消防組を組織した。
明治27年5月27日 (1894年)	赤間関消防組が設置された。(県下最初)
明治35年1月29日 (1902年)	赤間関市が下関市と改称「下関市常設消防委員条例」が制定され、消防委員50名が全市を10区の消防運営管理にあたった。
大正9年12月 (1920年)	初めての蒸気ポンプを購入配備した。各町に自警的な救護団が組織され、この中に消防組に半独立的にあった。
大正13年 (1924年)	ガソリンポンプ自動車を1台購入配備した。
昭和2年 (1927年)	下関常設消防隊を設置、現在の消防本部庁舎付近にあった警察署構内および細江町の元下関駅の2カ所に屯所を置き、毎年12月から翌年3月末日まで常駐警備した。
昭和3年 (1928年)	当時の消防組は1組12部、組員335名で組織され、器具は腕用ポンプ8台、蒸気ポンプ3台、自動車ポンプ2台をもち、各部に機庫と警鐘台を設置していた。
昭和9年 (1934年)	防空対策の一環として、市内各町内に防護団が組織された。
昭和9年10月	防空体制の確立、下関防空委員会に下関市及び彦島の消防組頭等が参加した。
昭和11年6月 (1936年)	下関常設消防部隊が強化され、12名が常勤する下関消防組常備部を設置、常備消防の草分けとなった。

昭和 14 年 4 月 1 日 (1939 年)	<p>勅令 (ちよくれい) 第 2 0 号警防団令の施行に伴い、従来の公設消防組、救護団、防護団は発展的解消を遂げ、新たに「下関警防団」が組織され、各警察署管内に分かれた 3 団 (下関、豊浦、水上) 1 3 分団、5, 4 0 8 名で編成された。</p> <p>団長、副団長、分団長 1 3 名、副分団長 2 1 名、部長 7 5 名、副部長 9 3 名、班長 2 6 3 名、副班長 2 7 4 名、班員 4, 6 6 3 名でこの時の消防ポンプは、自動車ポンプ 1 1 台、手引きポンプ 1 2 台となった。</p>
昭和 20 年 6 月 29 日 7 月 2 日 (1945 年)	<p>大空襲で市の中心部は焦土と化し、防火対象物は激減した。</p> <p>焼失戸数 10,168 棟 死者 324 名 焼失面積 1,089,000 m² 負傷者 1,059 名</p>
昭和 22 年 9 月 15 日 (1947 年)	<p>勅令 1 8 5 号消防団令の公布に伴い、警防団を解散し、新たに下関、豊浦警察署管内に下関、豊浦各消防団を結成、団長 (2 名) 以下 1, 6 8 3 名が任命された。</p>
昭和 23 年 3 月 7 日 (1948 年)	<p>官設消防から自治体消防へ移管し、勅令第 5 9 号消防団令が公布され、また 3 月 7 日施行された消防組織法の規定により、自治体に全面移管された。</p>
昭和 24 年 4 月 1 日 (1949 年)	<p>下関市消防団設置規則を制定</p>
昭和 25 年 4 月 1 日 (1950 年)	<p>下関市消防団条例を制定。下関、豊浦消防団を統合し、下関市消防団発足、団長に、古永 良助氏就任</p> <p>1 団、1 4 分団、1, 0 8 7 名、補助員 6 2 6 名 (定員 1, 1 0 0 名、補助員 7 0 0 名) となった。装備は普通自動車ポンプ 1 4 台、三輪自動車ポンプ 5 台、小型動力ポンプ 1 2 台、手引動力ポンプ 3 8 台となった。</p>
昭和 27 年 4 月 (1952 年)	<p>団長に、斉藤 義次氏が就任</p>
昭和 29 年 (1954 年)	<p>第 1 回山口県消防操法競技大会 (署対抗)</p>
昭和 29 年 8 月	<p>吉見、蓋井島が下関市と合併し、当地区の消防団が吉見分団に編入した。</p>
昭和 30 年 5 月 25 日 (1955 年)	<p>第 1 回中国 5 県消防ポンプ操法大会を開催</p>
昭和 30 年 10 月	<p>第 2 回山口県消防操法競技大会 (消防団参加が最初)</p>

昭和 30 年 7 月	厚狭郡吉田、王喜及び豊浦郡内日の 3 村を下関市に合併吸収し、3 村消防団 1 3 0 名を併せ総団員数 1, 2 3 0 名となった。
昭和 34 年 4 月 1 日 (1959 年)	彦島分団内の水上分団を廃止した。
昭和 36 年 4 月 1 日 (1961 年)	江の浦救護団結成 (江の浦班廃止に伴う対応)
昭和 37 年 3 月 (1962 年)	水上分団を廃止し、消防団定員が 1, 2 3 0 名から 8 7 0 名となった。
昭和 41 年 3 月 (1966 年)	市街地における消防団各部の統廃合を図り、消防団組織の充実を図るため、管轄区域に持つ中部、東部、西部及び北部の各分団を統括して中央分団に改称し、従来の 1 団 1 6 分団 8 7 0 名を 1 団 1 3 分団、定員 7 9 0 名となった。
昭和 43 年 8 月 5 日 (1968 年)	長府及び中央分団を縮小し、定員 7 6 5 名となった。
昭和 45 年 4 月 1 日 (1970 年)	団長に、長尾 登氏就任 消防団の定員 7 6 5 名を 7 2 5 名となった。
昭和 46 年 4 月 (1971 年)	中央分団を廃止し、1 2 分団、定員 7 1 7 名となった。
昭和 47 年 4 月 1 日 (1972 年)	下関地区広域行政事務組合の発足
昭和 48 年 10 月 (1973 年)	長府分団を廃止し、1 1 分団、定員 6 8 8 名となった。
昭和 51 年 (1976 年)	消防操法の基準の一部改正 (消防庁告示第 4 号)
昭和 53 年 (1978 年)	下関地区消防操法大会、 第 1 回基本操法実施
昭和 58 年 9 月 (1983 年)	軽積載車を新規導入

昭和 59 年 4 月 1 日 (1984 年)	団長に、熊野治夫氏が就任
昭和 60 年 1 月 19 日 (1985 年)	1 月 5 日出初式中急逝した熊野治夫団長の消防葬を消防訓練センターで執行した。
昭和 60 年 2 月 1 日	団長に、植田一治氏が就任
昭和 63 年 4 月 1 日 (1988 年)	団長に、原 利明氏が就任
平成 3 年 4 月 1 日 (1991 年)	団長に、栢野 博康氏が就任。団本部に分団長制度を加える。装備は消防車 15 台、積載車 19 台 (普通 11、軽可搬 8)、小型ポンプ 55 台、団員 12 分団、682 名となった。
平成 4 年 4 月 1 日 (1992 年)	装備は消防車 15 台、積載車 21 台 (普通 11、軽可搬 10)、小型ポンプ 55 台、団員 12 分団、682 名となった。
平成 5 年 4 月 1 日 (1993 年)	装備は消防車 15 台、積載車 23 台 (普通 11、軽可搬 12)、小型ポンプ 55 台、団員 12 分団、683 名となった。
平成 9 年 6 月 (1997 年)	消防団活性化対策の一環として、消防団員による「海峡まとい太鼓」隊を発足させる。鼓間清風先生の指導により練習を開始した。
平成 10 年 1 月 6 日 (1998 年)	下関市消防出初式において、「海峡まとい太鼓」を市民に初披露した。
平成 10 年 4 月 1 日	団長に、植田 喜好氏が就任
平成 11 年 2 月 (1999 年)	日本消防協会長から特別表彰「まとい」を受章する。
平成 11 年 3 月 26 日	吉見分団第 4 部及び第 6 部を統合した。
平成 12 年 3 月 27 日 (2000 年)	内日分団第 4 部及び第 5 部を統合した。
平成 14 年 4 月 1 日 (2002 年)	初めて女性消防団員 20 名が入団した。

平成 15 年 4 月 1 日 (2003 年)	条例を改正し、定年延長（55 歳から 60 歳へ）と勤務場所の規制を緩和した。（当市所在であれば他都市勤務でも資格を有する。）
平成 17 年 2 月 13 日 (2005 年)	下関市及び豊浦郡 4 町（豊浦町、豊北町、豊田町、菊川町）合併し、5 消防団が統合される。1 団 5 支部 6 6 分団 8 1 部。条例定数 1, 9 7 7 人となった。団長は植田喜好氏が就任。 下関消防団（吉田、王喜、小月、清末、王司、勝山、内日、彦島、川中、安岡、吉見） 豊浦消防団（宇賀、小串、川棚、黒井、室津） 豊北消防団（神玉、角島、神田、阿川、栗野、滝部、田耕） 豊田消防団（殿居、豊田中、西市、豊田下、豊田総合支所消防隊） 菊川消防団（豊東、岡枝、檜崎） 消防ポンプ車 2 4 台、普通積載車 4 3 台、軽積載車 5 7 台、小型動力ポンプ 1 2 5 台となった。
平成 17 年 2 月 25 日	まとい太鼓が、平成 1 6 年度消防団地域活動表彰（消防長長官表彰）受章した。
平成 20 年 1 月 20 日 (2008 年)	三菱重工業株式会社下関造船所に消防団協力事業所表示証を交付した。（第 1 号）
平成 21 年 6 月 15 日 (2009 年)	団長 植田喜好が、山口県消防協会長に就任
平成 21 年 10 月 22 日	女性消防団員、横浜市で開催された「第 1 9 回全国女性消防操法大会」に出場した。隊長以下、7 人。全国 4 7 チーム中、1 8 位となった。
平成 22 年 12 月 9 日 (2010 年)	下関方面隊吉見分団第 7 部に、軽積載車新規配備（消防機庫新築）。ポンプ車 2 4 台、普通積載車 4 2 台、軽積載車 5 9 台、小型動力ポンプ 1 2 5 台となった。
平成 23 年 6 月 1 日 (2011 年)	下関市（モセキ）消防団 P R キャンペーン実施 ※平成 2 3 年度及び平成 2 4 年度事業
平成 23 年 10 月 19 日	女性消防団、横浜市で開催された「第 2 0 回全国女性消防操法大会」に出場する。隊長以下、7 人。全国 4 4 チーム中、7 位となった。（東北 3 県不参加）

平成 24 年 10 月 7 日 (2012 年)	小月分団、東京都（東京臨海広域防災公園）で開催された「第 23 回全国消防操法大会（ポンプ車操法の部）」に出場する。隊長以下、7 人。全国 24 チーム中、17 位となった。
平成 25 年 4 月 1 日 (2013 年)	団長に、林 博幸氏（前豊北方面隊長）が就任
平成 25 年 5 月 29 日	前団長 植田喜好氏の山口県消防協会会長職が任期満了となった。
平成 25 年 12 月 13 日	「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」公布、施行
平成 27 年 10 月 15 日 (2015 年)	横浜市で開催された「第 22 回全国女性消防操法大会」に隊長以下 7 人が出場し、全国 46 チーム中、準優勝（2 位）となった。
平成 28 年 4 月 1 日 (2016 年)	消防操法や訓練礼式について、消防団全体の組織力の向上を図ることを目的とした訓練指導者制度発足
平成 28 年 4 月 1 日	建築工事総合評価競走入札において地域貢献度の加点項目に消防団協力事業所の登録が追加された。
平成 28 年 10 月 5 日	総務省消防庁が実施する「女性や若者をはじめとした消防団加入促進支援事業」で消防団を PR する CM を制作し、県内の民間放送局で 10 月から翌年 1 月まで放送した。
平成 28 年 10 月 14 日	長野県（長野オリンピックスタジアム）で開催された「第 25 回全国消防操法大会（ポンプ車操法の部）」に彦島分団が隊長以下 7 人出場。全国 25 チーム中、23 位となった。
平成 29 年 4 月 1 日 (2017 年)	団長に、西野武男氏（前下関方面隊長）が就任
平成 29 年 10 月 1 日	社会貢献をした大学生等の就職活動を支援し、大学生等の消防団活動への参加を促進することを目的とした下関市大学生等消防団活動認証制度を開始した。
平成 31 年 4 月 1 日 (2019 年)	団長に、岡崎吉治氏（前下関方面隊長）が就任
令和 2 年 3 月 24 日 (2020 年)	条例を改正し、定年を 60 歳から 65 歳へ延長した。

令和2年4月1日	下関市消防団内日分団第2部及び第3部を統合した。
令和3年3月25日 (2021年)	下関市消防団彦島分団第8部に大東タンクターミナル株式会社からの寄贈により自走式搬送車1台を配備した。
令和3年11月1日 (2021年)	総務省消防庁が実施する「企業・大学等との連携による女性・若者等の消防団加入促進支援事業」で消防団をPRする映像等を制作し、SNS等を活用し配信した。
令和4年3月30日 (2022年)	条例を改正し、費用弁償を出動報酬に改めた。
令和5年4月1日 (2023年)	団長に、中川正敏氏（前下関方面隊長）が就任
令和5年4月1日 (2023年)	総務省消防庁が実施する「消防団の力向上モデル事業」でドローン5機を購入し、操縦者10人の養成後運用を開始した。
令和6年4月1日 (2024年)	下関市消防団川中分団3部及び第9部を統合した。

-:-: 歴代の消防団長(下関市消防団) -:-:

就任年月日	退任年月日	氏名	
昭和 23 年 3 月 7 日	昭和 25 年 3 月 31 日	古川 良助	下関市消防団 豊浦消防団 下関市消防団 1 団となる。
25 年 4 月 1 日	27 年 3 月 31 日	古永 力	
27 年 4 月 1 日	45 年 3 月 31 日	古川 良助	
45 年 4 月 1 日	59 年 3 月 31 日	齋藤 善次	
59 年 4 月 1 日	60 年 1 月 5 日	長尾 登	
60 年 2 月 1 日	63 年 3 月 31 日	熊野 治夫	
63 年 4 月 1 日	平成 3 年 3 月 31 日	植田 一治	
平成 3 年 4 月 1 日	10 年 1 月 14 日	原 利明	
10 年 4 月 1 日	17 年 2 月 12 日	栢野 博康	
17 年 2 月 13 日	25 年 3 月 31 日	植田 喜好	
25 年 4 月 1 日	29 年 3 月 31 日	植田 喜好	
29 年 4 月 1 日	31 年 3 月 31 日	林 博幸	
31 年 4 月 1 日	令和 5 年 3 月 31 日	西野 武男	
令和 5 年 4 月 1 日		岡崎 吉治	
		中川 正敏	

備考 昭和 60 年 1 月 6 日から昭和 60 年 1 月 31 日までは、副団長 植田 治が消防団長の職務を代理。

平成 10 年 1 月 15 日から平成 10 年 3 月 31 日までは、副団長 植田 喜好が消防団長の職務を代理。

-:-: 寄附採納一覧 -:-:

平成25年12月12日	防災活動車	1台	日本消防協会
令和2年12月3日	防災活動車	1 //	日本消防協会
令和2年12月18日	小型動力ポンプ付き軽積載車	1 //	一般社団法人日本損害保険協会
令和3年3月25日	自走式搬送車	1 //	大東タンクターミナル株式会社